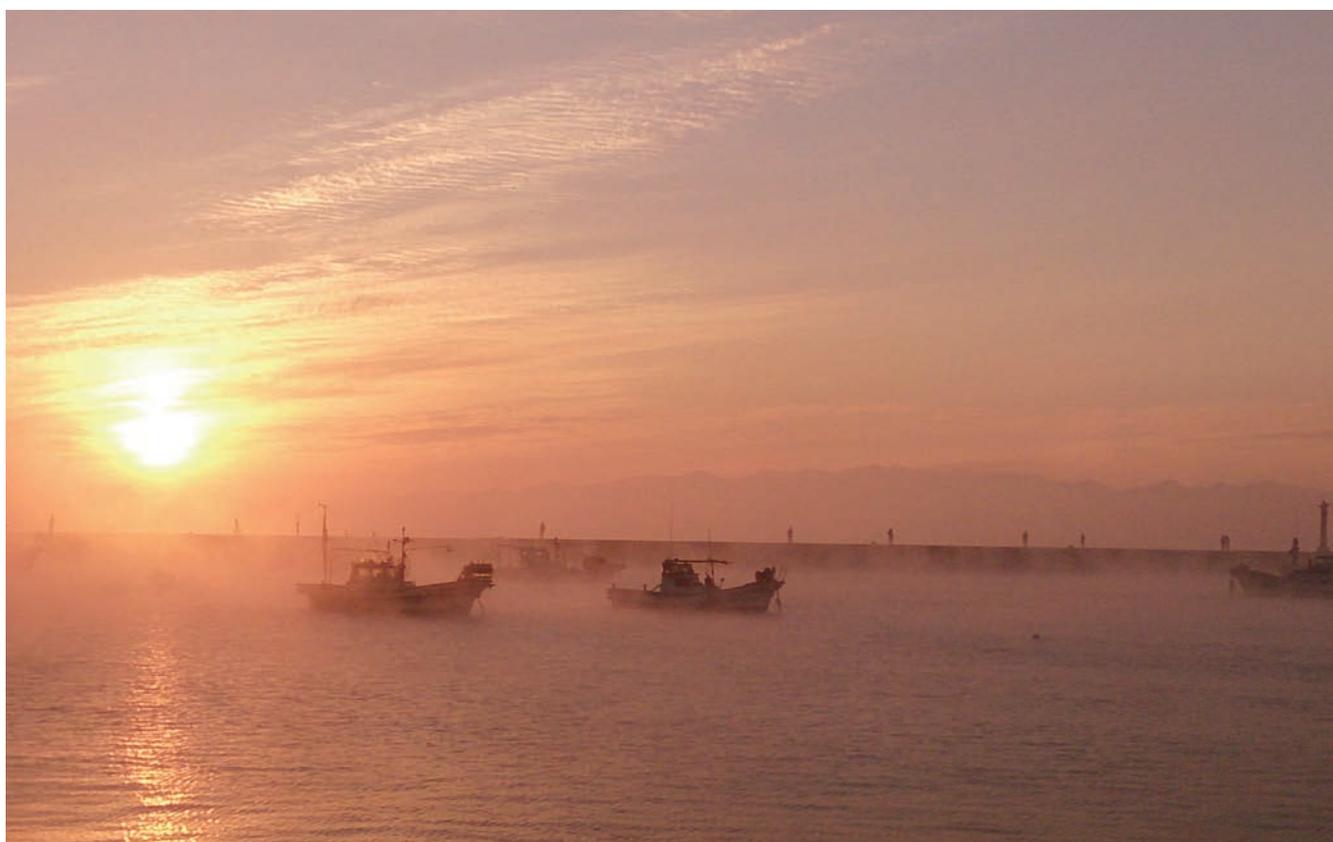


# 七尾市農業委員会だより

2020  
新年

令和2年1月1日発行／発行 七尾市農業委員会／編集 農業委員会だより編集委員会  
TEL 0767 (53) 8440／FAX 0767 (52) 7765／E-mail:nougyouinkai@city.nanao.lg.jp

No.58



## 明けましておめでとうございます

### 本年もよろしく願い申し上げます

令和二年元旦 七尾市農業委員会

会長職務代理者  
委員 長

事村成瀬坂山村細桜岡福出大細西白大伊前細長竹白  
務局瀬田戸本口田谷井田田村橋道野井濱豆吉川川山山  
職員峰芳茂良光正明政一純光宏 秀 良俊正 久  
一行信雄正男明郎慶郎也男一清猛一昭一明行勝雄博

農地利用最適化推進委員

川寺辻松須島酒松木中萩橋長加和松橋坂  
上井 中崎本井本下村原本田地田島下井  
英茂功昭正 米豊重俊良 俊 正一助  
伸雄典裕夫光稔浩秋信彦子章隆修弘博光

農業委員

# 新年明けまして

## おめでとうございませす



七尾市農業委員会

会長 坂井 助光

皆様には、輝かしい初春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

平素は、農業委員会活動に対し、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと4月30日には、先の天皇陛下の譲位、5月1日には新天皇誕生の踐祚の式があり、元号も平成から令和となり大変おめでたい年でありました。

一方で酷暑の日が続いたり、秋以降には大型台風で大きな被害がありました。被害にあわれた方々には心からお見舞い申し上げます。農業にとってみればTPPや米国との二国間協議の合意や、豚コレラの蔓延等、環境の変化は厳しいものがあります。

七尾市農業委員会といたしましても、「人・農地プラン」の実質化に向けて、七尾市と連携し農家への利用意向調査及び集落での話し合いを実施するとともに、少子高齢化、鳥獣被害等の多くの課題がありますが、圃場整備の推進による農地集積や遊休農地の解消をはじめ、担い手の育成や地域の活性化に努めて参る所存であります。

令和になって初めての新春となりましたが、令和2年が皆様にとりまして幸多き年となりますようご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

## 頑張ってます!

《part 35》

## 「職を農業とし、移住を決意」



亀井 勉さん  
(中島町浜田)

神奈川県に住んでいたときに、七尾市に移住していた知人に「遊びに来ないかと」誘われ、能登で「ものづくり」をしたいという気持ちがあったので視察を兼ねて知人を訪ねました。これをきっかけに移住したいという気持ちが高まり、能登定住・交流機構を利用して職と住居を探しました。能登での求人では農業が多かったこともあり職を農業とし、住む所は七尾市に決めました。当時、知人からは農業はキツイし大変で生活できるのかとも言われましたが農業をしていくと心に決め、平成28年に移住しました。

農業の経験も知識も無い状態だったので、株式会社スギヨファームで働きながら、いしかわ農業総合支援機構の研修塾で実務経験や講義を受けるなど農業経験

を積みました。就労して2年、能登島別所町で農地を貸してくれる人が出てきたことを機に退職して独立しました。

借りた農地は地質や場所によって野菜の生育が異なることもあり販売できるものを作る大変さを痛感しました。しかし、今年は前年より良いものが出来たと実感しています。体力がいる仕事で暑い、寒いもありますが好きなことを職としているので自分に向いていると思います。現在は南瓜、大根、人参などを育てていますが、更に耕作面積を広げ西瓜や金糸瓜などの瓜科の作物を作り、経営拡大を図っていききたいです。



## 視察研修報告(富山県立山町)

10月29日に富山県立山町農業委員会へ視察研修に行ってきました。北アルプスの一角をなす立山連峰がそびえる立山町は急流成願寺川流域の肥沃な土地を利用した米作が盛んで農業産出額の8割を占めています。

立山町農業委員会では、今後も耕作できない荒廃農地等が多い3地区をモデル地区として非農地判断を実施した。立山町の遊休農地は58ha、そのうち1号遊休農地は46ha、再生困難農地は16haで、これらの遊休農地の所有者に利用意向調査を実施。このうち、11haを非農地として判断。非農地通知を発送し、農地台帳から該当農地を削除。立山町の遊休農地は2割ほど解消されたとのことです。

七尾市農業委員会も立山町を参考に非農地判断を実施し、非農地については農地台帳から削除し、該当する農家の方に非農地通知の発送を計画しています。



## 第57回農業委員会大会

11月15日、輪島市文化会館で県内市町から400人近くの農業委員、農地利用最適化推進委員ほか関係者が参集して石川県農業委員会大会が開催されました。式典の前に(株)ドロップ代表取締役の三浦綾佳氏による「これからのブランドینگ・マーケティング戦略」異業種から参入した認定新規就業者の挑戦」と題し基調講演が行われました。

その後、農業政策に関する提案決議、「地域の農地を活かし、担い手を応援する全国運動」の推進と改正農業委員会法に基づく新たな組織づくりに関する申し合わせ決議のほか、情報提供活動の取り組み強化に関する申し合わせ決議を採択しました。

また、この大会の席上において、次の方々が永年勤続農業委員の表彰を受けました。

■ 全国農業会議所会長表彰(通算20年以上)

松本 米治 委員

■ 石川県農業会議所会長表彰(通算9年以上)

坂井 助光 委員 加地 俊隆 委員



## 女性農業委員の料理教室

12月14日、矢田郷地区コミュニティセンター調理室にて橋本良子農業委員は地産地消の食育活動として料理教室を開催しました。当日は、羽咋市農業委員、農業者や一般参加者を含め23人が参加。食材は農業委員と農地利用最適化推進委員が育てた野菜を使用し、新鮮野菜の見分け方や調理法を学び仕上げました。

参加者からは「一つの食材をちよつと工夫することで美味しく食べることができた。」「また、お正月に作ってみたい。」などの感想を聞くことができました。

これからも、地産地消を通じた料理教室で農業委員の役割などを周知していきたいと思っています。

### 【メニュー】

- ①白菜のシューマイ風
- ②大根の花びらもち風
- ③米粉でもっちりネギ焼き
- ④ねぎ焼き
- ⑤米粉蒸しパン



※①から③は橋本さんの考案レシピです。料理レシピサイトに掲載されています。

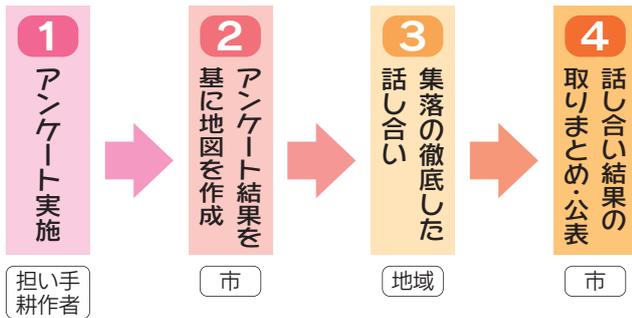
# これからの自分と地域の農地の未来について 考えてみませんか。

## 人・農地プランとは

高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などによる人と農地の課題を解決するために、集落の5年・10年後のひとと農地の将来を考える話し合いをし、その結果を作成した地域農業の未来を描く設計図です。

そして、アンケートの実施、地域の状況を地図化、集落での話し合いの3つが行われている人・農地プランが「実質化された人・農地プラン」です。

## 人・農地プランの実質化へのスケジュール



プラン作成のために下記について話し合いを行います。

- ①今後の中心となる経営体(個人、法人、集落営農)はどこか。
- ②中心となる経営体に農地を集積・集約化していくにはどうしたら良いのか。
- ③中心となる経営体とそれ以外の農業者(兼業農家、自給的農家)を含めた地域農業のあり方など。

ご協力を  
お願いします!

農地利用最適化推進委員と農業委員が対象集落の農業者に今後の営農活動や後継者の有無などのアンケートを実施しています。



## 人・農地プラン作成のメリット

### 耕作放棄地の防止

地域の担い手を明らかにし、今後利用されなくなる農地を貸し出すことで耕作放棄地の発生防止につながります。

### 各種補助事業等申請資格の獲得

各種補助事業は人・農地プランの中心経営体に位置づけられることが要件となっていることがあります。

### 新規就農者や後継者の確保

新規就農者や後継者等は集落の農業を発展させる助けとなります。人・農地プランに参加した新規就農者や後継者の方は様々な補助事業を受けられる可能性が広がります。

お問合せ 農林水産課 53-8422

## 全国農業新聞

を購読  
しましょう!

- ◆発行日 毎週金曜日
- ◆購読料 一カ月 700円 年額 8,400円

## 編集後記

あけましておめでとうございます。  
旧年中は農業委員会だよりをご愛読いただき有難うございました。

本年も編集委員一同、お役に立てる情報を皆様に発信していきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとって幸多き年となることを祈念するとともに里山里海を守るために頑張っていきましょう。

編集委員長松本・委員一同

## 国が支える 安心が大きくなる 担い手積立年金 農業者年金

3つの要件を満たせばどなたでも加入できます!

- ◆加入資格
- 60歳未満
- 国民年金第1号被保険者
- 年間60日以上農業従事



税制面の優遇措置や終身年金で80歳までの保障付きなど様々なメリットがあります。  
お気軽にご相談ください。

お問い合わせ、お申し込みは農業委員会へ  
☎ 53-8440 FAX 52-7765